

台湾青森りんご友の会情報交換会概要

(むつ小川原地域産業振興財団支援事業)

- 1 日 時 平成25年10月7日(月)午後3時～午後5時20分
 - 2 場 所 ホテルニューキャッスル2階曙の間(弘前市上鞆師町24-1)
 - 3 出席者 台湾側:10社、13名、日本側:45名、合計58名
(出席者名簿:別紙)
 - 4 内容(司会進行:青森県りんご輸出協会白藤理事、通訳:運盈商事鈴木社長)
- (1) あいさつ

①一般社団法人青森県りんご輸出協会 理事長 太田一民



親愛なる台湾青森りんご友の会の皆さんの出席を心から歓迎します。

本会は、昨年10月に台湾と日本のりんご関係者の一層の連携を密にするために創設され、今回は台湾南部の代表の方をお招き致しました。青森県りんご輸出協会の今年の台湾への輸出目標数量は3万トンです。そのためには、旧正月を境に激減する県産りんごの販売を皆さんにお願いしたい。青森県には世界一の品質のりんごが8月まであります。そのための貯蔵施設や技術があります。台湾にも立派な冷蔵庫も出来、コールドチェーンも発達しています。皆さんとともに3万トンの販売を目指しましょう。将来は5万トンを目指しましょう。

②青森県副知事 青山祐治

台湾と青森県は、長い間りんごを通じて交流を深めてきました。とりわけ、台湾がWTOに加盟してから台湾へのりんごの輸出量は大きく伸びました。しかし、近年、円高や震災の影響、産地価格の高騰などで輸出量が大幅に減少して、ショックを受けています。昨年来「友の会」の力を借りて輸出量の回復に努めてきましたが、まだ十分ではありません。今年りんごは順調に生育しています。皆さんの期待に応えられる安全・高品質のりんご供給に努めるとともに、台湾での消費宣伝対策に万全を期していくので、皆さんの一層のお力添え、ご尽力を賜うことをお願い申し上げます。



③長龍農産股份有限公司 蔡 長龍



産地の皆様こんにちは。今回はご招待をいただきありがとうございました。台風を避けながら何とか青森にやってきました。青森りんごは美味しくてジューシーで、大きくて綺麗に作られていることは世界中で有名です。青森りんごは最盛期に3万トン近く輸入されており、台湾の消費者は青森りんごに好意を持っています。台湾は世界中から約13万トンのりんごを輸入しています。今回の会議を有意義なものにして、日本のりんごの輸入量が増えるようにしていきたい。そのためにも台湾の貿易業者と日本の業者の絆を強めてより有意義な活動にしていきたい。

(2) 2013年産りんごの生産状況と台湾への輸出について

生産状況については、青森県産業技術センターりんご研究所長内所長から、台湾への輸出については、青森県国際経済課小山課長から、資料に沿って説明がなされた。

(別紙資料参照)

【主な質疑】

<錦橋貿易有限公司>

Q1：現在阪神百貨店の中にある J SONS で働いている。是非こちらでもイベントをやらせてもらえないか。

A1：今年、J SONS の全店舗でのイベントを計画している。このほか太平洋そごう、松青超市など色々な業態でのイベントを計画している。（りん対協）

Q2：イベント開催時には、青森県知事や弘前市長に登場して貰って強力的に宣伝して欲しい。



<長龍農産股份有限公司>

Q2：高雄は台湾第2の都市だ、台北だけでなくもっと南部でも宣伝をするべきだ。

A2：高雄のスーパー、百貨店でのイベントも計画している。（小山課長）

Q2：スーパー等の試食会のほかに、大きな記者会見も宣伝効果がある。

A2：知事が台湾を訪問した際は、台湾のテレビに出演して、1日4回程度放映されている。（国際経済課）

（3）情報交換

【台湾の状況等について（話題提供）】

<啓照企業股份有限公司>

- ・日本産りんごが台湾に入る時期には、アメリカ産、韓国産のりんごが出回っている。夏場はニュージーランドやオーストラリア産が出回っている。世界各国からりんごが入っているが、台湾の消費者は経済状況によってどこの国のりんごを購入するか決まっている。
- ・日本のりんごは高級品なので、経済力のある層が購入している。こうしたりんごは贈答用として扱われるので、そうした時期に需要が大きくなる。安いりんごはチリ産とかアメリカ産に集中している。



<日豪貿易有限公司>

- ・日豪貿易は、日本・アメリカを始めとして世界各国から果物を輸入している。販売時期については、輸出側、消費地側の要望・意向を聞きながら取り組んでおり、さまざまな活動に参加している。昨年も台中で大きな会議が開かれ、参加しているが、昨年意見を出した販促グッズやラッピングバスの宣伝がすぐ実現して、青森りんごがより販売しやすくなると安心している。
- ・台湾では公告宣伝で販売が大きく拡大した例としてニュージーランドのゼスプリキウイフルーツがある。医学的効用などについて、大人から子供まで分かりやすいCMを実施しているので、青森りんごももっと宣伝して、特に青森りんごがいつから販売開始になるのかという点を強調してほしい。数字の結果はあとからついてくる。
- ・青森のりんごは高級であることはよく知られているが、台湾の人が手を出しやすいように、高いものから安いものまで多くの等級を揃えて販売することによって、まだまだ販売数量が伸びると感じている。



【総合討議】

メインテーマ

- 輸出量が2万トンを下回っている理由について
- 輸出量2万トンを回復させるための方策について

<阿成水果行>

- ・高雄市で40年来果物を販売している。台湾での日本りんごの需要は2極化している。高級品と価格の安いものである。高級品は値段が高くても気にする人はいない。価格の安いものを求める人は品質はほどほどで十分である。日本産りんごは高いもから売れていくので、品質と外観を重視したりりんごの販売に努めるべきだ。



<全農青森県本部>

- ・先程台湾の業者の方から、今年のトキは甘いと言われて嬉しく思っている。
 - ・今年は、農協系統、商系、県などが連携して美味しいトキを作るように努力してきた。10月1日から15日の適期に収穫するようTVCMも行っている。トキの販売が上手くいくとその後のりんごの販売もスムーズにいくと思うので、よろしくお願ひしたい。
- トキの保存期間はどのくらいか（阿成水果行）→1ヶ月半から2ヵ月（全農）



<長龍農産股份有限公司>

- ・今年のリンゴ輸出は良い条件にある。それは、日本の円高が下がったこと。青森りんごの収穫量が確保できることである。しかし、懸念されるのは土壌菌の発生である。日本のりんごの買い控えにつながるので、きちんとした対応が必要である。
- 昨年はふじの収穫期に毎日雨に降られて、土壌菌が発生した。今年は生産者に降雨時の収穫を控えることや収穫時に箱やかごに泥が付着しないよう注意することなどの指導を徹底していく。（りんご協会）



<りんご輸出協会>

- ・トキや王林など青色系のりんごについて、台湾の人は青色のものを好む傾向があるが、その辺は変化があるのか。
- 色に関する反応はよくわからない。どの色がおいしくて、どの色だと美味しくないのかよくわからない。要は味次第ということ。（阿成水果行）

<キタエアップル>

- ・台湾のTVCMの時期について、サンふじの比率が高まってきているので、そうした品種構成を考えて時期の設定をするべきだ。
- 最大の需要期である春節に合わせて時期を設定している。（国際経済課）

<りんご輸出協会>

- ・旧正月で販売停止となると、今年の旧正月は1月31日なので、販売期間が3カ月しかなくなってしまう。せめて南半球のりんごが入ってくる5月まで販売を延長してもらいたいと考えているが、見通しはどうか。
- 妥当な価格設定と土壌菌対策によって後期の販売が可能になる。旧正月以降も1月の灯籠の節分、3月の節分や5月の端午の節句など行事も続くので販売する機会は沢山ある。（長龍公司）

<UNIS>

- ・3万トンまで拡大するためには、台湾と日本双方で果物の関税を撤廃することが一つの策だと思う。国に働きかけたらどうか。



5 台湾青森りんご友の会認定証交付について

台湾青森りんご友の会は、平成24年10月に創設されたが、今回新たに加わった5社に対して認定証を交付した。

これまで認定している44社と合わせると全体で49社が会員となっている。認定証は懇親会の会場で太田理事長から5社の代表に交付された。



6 産地見学

情報交換会に先立って、台湾からの招待者を産地見学に案内した。

訪問先

- ① 弘果弘前中央青果市場見学
- ② 青森県りんご研究所見学
- ③ 村上鐵雄りんご園見学（黒石市長坂 青森県農業経営士）
- ④ マルジンサンアップル選果場見学

別添資料

2013年産りんごの生産状況について

1 りんごの生育ステージ

開花日は4月中旬から5月中旬まで気温が低く経過したため、各品種とも平年より12日遅く、観測史上2番目に遅い記録となりました。

表1 りんごの生育ステージ

りんご研究所（黒石市）

| 品 種 | 年 次 | 発芽日 | 開花日 | 満開日 | 落花日 |
|---------|-----|-------|-------|-------|-------|
| ふ じ | 本 年 | 4月14日 | 5月20日 | 5月24日 | 5月27日 |
| | 平 年 | 4月 9日 | 5月 8日 | 5月14日 | 5月18日 |
| | 平年差 | +5 | +12 | +10 | +9 |
| つがる | 本 年 | 4月13日 | 5月20日 | 5月24日 | 5月28日 |
| | 平 年 | 4月 8日 | 5月 8日 | 5月13日 | 5月18日 |
| | 平年差 | +5 | +12 | +11 | +10 |
| ジョナゴールド | 本 年 | 4月10日 | 5月19日 | 5月23日 | 5月27日 |
| | 平 年 | 4月 6日 | 5月 7日 | 5月13日 | 5月17日 |
| | 平年差 | +4 | +12 | +10 | +10 |
| 王 林 | 本 年 | 4月14日 | 5月18日 | 5月23日 | 5月27日 |
| | 平 年 | 4月 8日 | 5月 6日 | 5月12日 | 5月16日 |
| | 平年差 | +6 | +12 | +11 | +11 |

注) 平年値：1991年から2010年までの20か年平均。

平年差：－は平年より早い、＋は平年より遅い。

2 果実の肥大状況

開花が平年より12日遅かったため、6月1日の果実横径は平年比57～63%でした。5月下旬以降の高温、7月の多雨により徐々に回復し、9月1日の調査では、横径の平年比が100～103%と平年並から平年をやや上回っています。

表2 りんご果実肥大経過（横径）

りんご研究所（黒石市）

| 品 種 | 調査日 | 本 年 (cm) | 平 年 (cm) | 前 年 (cm) | 平年比 (%) | 前年比 (%) |
|---------|-------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| ふ じ | 6月 1日 | 0.8 | 1.4 | 1.3 | 57 | 62 |
| | 7月 1日 | 3.6 | 4.0 | 4.0 | 90 | 90 |
| | 8月 1日 | 6.1 | 6.0 | 6.3 | 102 | 97 |
| | 9月 1日 | 7.7 | 7.5 | 7.7 | 103 | 100 |
| つがる | 6月 1日 | 1.0 | 1.6 | 1.4 | 63 | 71 |
| | 7月 1日 | 3.9 | 4.4 | 4.3 | 89 | 91 |
| | 8月 1日 | 6.7 | 6.9 | 7.0 | 97 | 96 |
| | 9月 1日 | 8.3 | 8.3 | 8.4 | 100 | 99 |
| ジョナゴールド | 6月 1日 | 1.0 | 1.7 | 1.5 | 59 | 67 |
| | 7月 1日 | 4.0 | 4.5 | 4.5 | 89 | 89 |
| | 8月 1日 | 6.6 | 6.8 | 7.0 | 97 | 94 |
| | 9月 1日 | 8.1 | 8.1 | 8.2 | 100 | 99 |

注) 平年値：1991年～2010年の20か年平均。

ただし‘ふじ’及び‘ジョナゴールド’は1991年を除く。

3 2013年産りんごの予想収穫量

2013年産りんごは、雪害や開花遅れ、6月の干ばつ等の影響により、山間部では生育にバラツキがあり、果実肥大が遅れ気味の園地が見られるものの、平野部では、ほぼ平年並まで回復しています。

2013年産りんごの予想収穫量は、前年産を1万5,100トン下回る43万900トンが見込まれています。

表3 2013年産りんごの予想収穫量（2013年8月3日現在）

| 品 種 | 結果樹面積 (ha) | 予想収穫量 (t) | 前年収穫量 (t) | 前年収穫量 との差(t) | 前年対比 (%) |
|--------|---------------|--------------|--------------|-----------------|-------------|
| つがる | 2,300 | 45,700 | 43,800 | 1,900 | 104 |
| ジョーコート | 2,100 | 44,600 | 46,700 | -2,100 | 96 |
| 王 林 | 2,210 | 47,800 | 50,000 | -2,200 | 96 |
| ふ じ | 9,800 | 205,200 | 227,700 | -22,500 | 90 |
| そ の 他 | 3,590 | 87,600 | 77,800 | 9,800 | 113 |
| 計 | 20,000 | 430,900 | 446,000 | -15,100 | 97 |

- 注) 1 結果樹面積は、りんご果樹課推定値
2 前年収穫量は、国公表の実績値
3 前年対比は、前年収穫量に対する比率

4 病害虫の発生状況等

病害虫の発生は、全般に少ない状況です。

台湾向け輸りんごについては、選果こん包登録施設事業者に対し、モモシンクイガ被害果実の排除の徹底等に関する研修会を開催したほか、台湾の農薬残留基準値の設定状況について、県ホームページへ掲載し、広く周知に努めています。

台湾へのりんご輸出拡大に向けた青森県の取組について

1 輸出の目標と現状

青森県では、2010年から目標数量を掲げて、世界各国への青森りんごの輸出に取り組んでいます。

その中で最も重要な輸出先に位置づけているのが台湾であり、全輸出量の90%以上が台湾向けとなっています。

(1) 台湾へのりんご輸出目標と実績（目標値は2010年設定）

※9/27に8月末実績値に更新

| 年産 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|
| 目標数量(トン) | — | — | — | — | 20,600 | 21,680 | 22,760 | 23,840 |
| 実績数量(トン) | 22,318 | 23,878 | 20,498 | 21,656 | 15,912 | 8,459 | ※ 13,208 | |
| 達成割合(%) | — | — | — | — | 77 | 39 | 58 | |

台湾がWTOに加盟した2002年以降、台湾へのりんごの輸出は順調に伸びてきました。特に、2006年産から2009年産までの4年間は、連続して2万トンを超えました。

しかし、2010年産は円高や東日本大震災の影響、さらに2011年産は不作にともなう産地価格高騰もあって約8千トンまで激減しました。2012年産は、台湾の輸入業者の皆様の御協力によって、1万3千トンまで回復しましたが、まだ十分とは言えない状況です。

(2) 今年産りんごの台湾への輸出希望数量

| | |
|--------------|--------|
| 2013年産輸出希望数量 | 2万トン以上 |
|--------------|--------|

2013年産りんごは、平年並みの生産数量を確保できる見通しです。本県としては、今後の生産管理に万全を期して、高品質・良食味なりんごを皆様に供給したいと考えています。

本年産の輸出量が2万トン以上になるよう御協力をお願いします。

<品種別希望割合>

| 品 種 | サンふじ | ふ じ | ト キ | 王 林 | 世界一 | その他 |
|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 割 合 | 50% | 30% | 5% | 5% | 5% | 5% |

本年産も「ふじ」を中心にしながら「トキ」や「王林」など黄色りんごも一定量輸出したいと考えています。

2 台湾への輸出対策

台湾の皆様へ、安全・高品質で美味しい青森りんごを提供するため、青森県では関係者一同力を合わせて次の対策に取り組めます。

(1) 生産・流通対策

- ①農薬の適正使用により、病虫害の防除を徹底します。
- ②炭酸ガス障害(褐変)防止対策に取り組めます。
- ③黄色品種については「カラーチャート」の利用による適期収穫を徹底します。

(2) 消費宣伝対策

台湾の消費者に青森りんごのおいしさをアピールし、消費拡大を図るため関係機関・団体が次のような取組を行う予定です。

| 時期 | 場 所 | 内 容 |
|-------------------------|-------|---|
| 2013年 10月 | 青森・台湾 | ・台湾のマスメディアに青森りんごの取材をしてもらい、生産者の取組や安全性などの情報を台湾で発信してもらいます。 |
| 11月 ～ 2014年 1月 | 台湾全体 | ・テレビCMを11月から翌年1月まで400本程度放送します。 ・グルメや料理番組とのタイアップにより青森りんごをPRします。 ・流通・販売業者に販促用のジャンパーやグッズを提供します。 |
| 12月 | 台湾全体 | ・大手スーパーマーケットや台北・台南の百貨店など、台湾全土の主要都市で青森りんごの試食販売や消費イベントを実施します。 |
| | 台北 | ・台北国際マラソンで青森りんごをPRします。 ・福祉施設・幼稚園を訪問してりんご寄贈します。 ・流通関係団体との情報交換会を開催します。 ・ラッピングバス(80台程度)で、青森りんごをPRします。 |
| 2014年 1月 | 台湾全体 | ・大手スーパーマーケットや台北・台南の百貨店など、台湾全土の主要都市で青森りんごの試食販売や消費イベントを実施します。 |

台湾青森りんご友の会情報交換会出席者名簿

台湾側

| 番号 | 所 属 | 氏 名 |
|----|------------|------|
| 1 | 長龍農産股份有限公司 | 蔡 長龍 |
| 2 | 錦橋貿易有限公司 | 許 睿夸 |
| 3 | 阿成水果行 | 邱 阿成 |
| 4 | 協茂水果行 | 陳 棋琛 |
| 5 | 協茂水果行 | 黄 湘盈 |
| 6 | 天來水果行 | 邱 文謙 |
| 7 | 蕭糖水果行 | 蕭 安廷 |
| 8 | 啓照企業股份有限公司 | 王 首巖 |
| 9 | 日豪貿易有限公司 | 黄 吉利 |
| 10 | 三溢水果行 | 黄 泰綸 |
| 11 | 祥發水果行 | 蔡 淑恵 |
| 12 | 吉興水果行 | 簡 元宏 |
| 13 | 吉興水果行 | 林 淑玲 |

日本側

| 番号 | 所 属 | 氏 名 |
|----|-----------------------|---------------------|
| 1 | (一般) 青森県副知事 | 青山 祐治 |
| 2 | 青森県国際経済課長 | 小山 宏 |
| 3 | 青森県国際経済課総括主幹 | 井畑 勝博 |
| 4 | 青森県りんご果樹課長 | 船木 一人 |
| 5 | 青森県りんご果樹課主幹 | 佐藤 新吾 |
| 6 | 青森県りんご研究所長 | 長内 敬明 |
| 7 | 青森県りんご協会会長 | 福士 春男 |
| 8 | 青森県りんご協会技師 | 長内 秀樹 |
| 9 | 青森県りんご協会技師 | 奈良 正史 |
| 10 | 青森県りんご協会技師 | 藤田 憲彦 |
| 11 | 青森県りんご対策協議会会長 | 阿保 直延 |
| 12 | (株)ファーストインターナショナル営業部長 | 桜庭 雅紀 |
| 13 | (株)ファーストインターナショナル | 久保 映矩 |
| 14 | (株)UNIS代表取締役 | 徐 正光 |
| 15 | (株)UNIS | 福島 聖護 |
| 16 | TOPWEAL LIMITED | LeeTing Kenneth |
| 17 | TOPWEAL LIMITED | ChongManSzeMac y |

| | | |
|----|------------------|--------------------|
| 18 | TOPWEAL LIMITED | IpHiu Lam |
| 19 | TOPWEAL LIMITED | Hiromi Kitatani |
| 20 | (有)ヤマハチアップル | 工藤 幸久 |
| 21 | (株)奥富士 | 米澤 悠太 |
| 22 | (有)丸勝木村商店 | 渡辺 純也 |
| 23 | 宮川商店(株) | 樋口 拓哉 |
| 24 | (株)パカサカゴサービス営業担当 | 山本 浩之 |
| 25 | 陽明日本統括部長 | 劉 季芳 |
| 26 | 陽明日本係長 | 藤掛 純也 |
| 27 | (有)運盈商事社長 | 鈴木 明達 |
| | (会員) | |
| 28 | キタエアップル | 鍛 恒雄 |
| 29 | キタエアップル | 安井 勇治 |
| 30 | キタエアップル | 竹林 幸雄 |
| 31 | ナカショウ | 長尾 清秀 |
| 32 | 有津川(株) | 荒島 揚太郎 |
| 33 | (株)マルジンサンアップル | 葛西 綾子 |
| 34 | (株)三印白藤商店 | 白藤 孝仁 |
| 35 | (有)竹谷商店 | 竹谷 保 |
| 36 | (株)マルタカ物産 | 高木 健太郎 |
| 37 | (株)マルイチアップル | 加川 泰隆 |
| 38 | ヤマタミ太田りんご移出(株) | 太田 雅晴 |
| 39 | 全農あおもり | 黒滝 英樹 |
| 40 | 全農あおもり | 笹森 俊充 |
| 41 | (有)森山商店 | 森山 博幸 |
| 42 | 丹代青果(株) | 丹代 雄介 |
| 43 | 青森県りんご輸出協会 | 太田 一民 |
| 44 | 青森県りんご輸出協会 | 丹代 金一 |
| 45 | 青森県りんご輸出協会 | 北山 敏光 |